

国語科における異校種間の連携の工夫

研究の視点

(1) 語彙を豊かにする

毎日の授業の中で、どのようにしたら子どもたちの語彙を豊かにし、言語力をつけさせることができるのか。

(2) 「言語運用法」を身に付けさせる

児童・生徒の実際の言語活動に沿った言語事項の指導の在り方はどのようにしたらよいのか。小・中・高の12年間を通じた系統的な指導はどのようにしたらできるのか。

研究テーマ

子どもたちの言語力を高める指導方法の在り方
～語彙を豊かにし、「言語運用法」を身に付けさせる指導～

調査研究の手立てと実践事例

1 小学校 4年 「文と文のつながり」

○接続語「だから」と「しかし」の使い分け

- ・身近な例をもとに「だから」と「しかし」の使い方を考える。
- ・文と文のつながりに気を付けながら、空欄補充と例文づくりに取り組む。
- ・「一生懸命に勉強した、() 85点だった。」に入る語を選択する。

2 中学校 2年 「単語の分け方」

○主語・述語の呼応と修飾語

- ・テレビのインタビュー番組の視聴
- ・主語、述語の再確認
- ・「一塁手へ捕手が球を投げる。」の修飾の関係をとらえる。

3 高等学校 2年 現代文「大人への条件」

○論理の展開をとらえながら筆者の考えを読み取る

- ・第二段落の音読
- ・「子どもに対するまなざしの変化」の説明に登場する語彙の関係をまとめる。
- ・筆者の論理の流れを読み取る。
- ・段落を要約し、要旨を把握する。

成果と課題

☆スモールステップのワークシートを用意することで、日常生活における活用方法が身に付きつつある。

★まだ十分に理解できない児童もおり、多くの文例に触れさせて活用場面を多くすることで慣れさせる必要がある。

☆スモールステップのワークシートにより、生徒のつまづきを把握することができた。

★「分かる」「できる」から「使える」と言えるまで指導を継続する必要がある。

☆論理の展開をとらえるための方法を示し、生徒自身がその方法に基づいて評論文を読み取ることができた。

★具体的な事象から概念を導き出すなど、基本的な概念を確かにする指導の工夫。